

## 「医学検査」の今後と論文の執筆について

◎専務理事 小松 京子<sup>1)</sup>  
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会<sup>1)</sup>

日本臨床衛生検査技師会（日臨技）の会誌は、1957年（昭和27年）に「衛生検査」として第1巻第1号が発行され、以来70年の歴史がある。第40巻第1号からは雑誌名を「衛生検査」から「医学検査」へと変更し、現在、この「医学検査」には毎年100前後の論文が投稿されている。この度、「医学検査」は時代に沿った形で会員の皆様へ学術情報を提供するべく、2026年1月から電子書籍化を開始することとなった。なお「医学検査」に掲載された論文をJ-STAGEへ掲載申請したのは平成26年2月であり、第63巻から掲載している。現在J-STAGEでは、国内の2,400を超える発行機関が、4,000誌以上のジャーナルや会議録等の刊行物を公開している。J-STAGEは、多様な検索を可能として利用価値は高いが雑誌の形態ではない。一方、日臨技ホームページに掲載する「医学検査」は、電子書籍という形で今まで印刷された雑誌としての形態を維持することにより、閲覧は容易になると考える。また、日臨技ホームページを通して「医学検査」を閲覧できることは、学術面での広報の一旦を担うことができる。電子書籍化は、日臨技にとって印刷や郵送費などの費用面でもメリットは大きく、会員の皆様にとっては書籍の保存スペースが不要となることや論文の検索がJ-stageと併せ容易になるなどのメリットが大きいと考える。

会員の皆様が発刊情報を携帯で手軽に確認できるようなアプリを開発中であるが、どの程度の閲覧が見込めるかは未知数であり、会員の皆様へのタイムリーな情報提供や意見収集が必須であると考えている。既に、冊子を手取るほうが読みやすいなどの問題点は挙げられており、携帯等により簡単に閲覧できるような工夫が必要であると考えている。

なお、日臨技では「医学検査」のなかで特に優秀と考えられる論文に対して、最優秀論文賞・優秀論文賞として表彰する制度を設けている。毎年開催する医学検査学会の式典の中で表彰されるので、ぜひ多くの会員の皆様から投稿頂きたい。論文を書くことによって学術誌に掲載されると、自身の研究・検討が初めて世界へ発信されたこととなる。一般的に、査読のある学術雑誌に掲載された論文は、学会での発表よりも業績としての価値は高く、論文として優れたものは、参考文献として使用される可能性もある。また、論文を作成される会員の皆様が参考文献として「医学検査」に掲載された論文を引用して頂くことにより、個人だけでなく「医学検査」の学術誌としての価値が高くなっていくことも併せてご理解いただければ幸いである。

また、若い方々への論文投稿への啓発のために「初心者のための論文作成に関する基本的な事項」をVODにて発信することを企画している。

出版委員会の事業に今後ともご理解とご協力をお願いする次第である。